

デイリー・ジーザス・ニュース #247

受難週：月曜日...権威が行動する日

イエスは神殿を清めることで権威を握る

MK 11. 15-18; LK 19. 47-48 (対訳: MT 21. 12-13; LK 19. 45-46)

15 エルサレムに着くと、イエスは神殿の境内に入り、そこで商売をしていた人々を追い出し始め、両替人の台や鳩を売る人々の腰掛けを倒されました。16 そして、だれも神殿の境内を通して商品を運ぶことを許されませんでした。

17 そしてイエスは彼らに教えながら言われた、*「『わたしの家はすべての国民の祈りの家と呼ばれる』と書いてあるではないか。」* (イザヤ56:7)

「しかし、あなたたちはそれを『強盗の巣』にした。」 (エレミヤ書 7. 11)

18 祭司長たちや律法学者たちはこれを聞いて、イエスを殺す方法を探し始めた。群衆全体がイエスの教えに驚いたので、彼らはイエスを恐れたからである。

47イエスは毎日宮で教えておられたが、祭司長、律法学者、民衆の指導者たちは、イエスを殺そうと企てていた。48 しかし、民衆が皆、イエスの言葉に固執していたので、どうすることもできなかった。

=====

注: 私たちは「混合テキスト」の原典福音書を次のように上付き文字で識別します: マタイ = ^{MT}、マーク = ^M、ルカ = ^L、ヨハネ = ^J、使徒行伝 = ^A。この「上付きID」は引用文の冒頭に挿入され、別の上付き文字が現れるまでその聖書を識別します。さらに、*赤いイタリック体はイエスの言葉を示します*。旧約聖書の引用は大文字で書かれています。

コンテキストダイジェスト	
位置	エルサレムの神殿の庭
タイムライン	4月上旬 (39ヶ月目)
イエスの生涯の文脈	第8段階：受難週
	B. 月曜日：権威が行動する日
タイトル	2. イエスは神殿を清めることで権威を握る

コメント：

イエスは月曜日の朝、実を結ばないいちじくの木に対する権威を明らかにすることから始めました。そして神殿に入り、神の家に対する権威を燃えるような熱意をもって示しました。

イエスは3年前、宣教の最初の過越祭の時に、同じ場所で神殿を清めました。当時はまだあまり知られていませんでしたが、今、名声の絶頂期に、同じ理由で、同じ行為を繰り返しました。しかし、その権威はより強固なものとなりました。

デイリー・ジーザス・ニュース #247

最初の清めの時と同じように、金商人と動物商人を追い出ただけでなく、イエスは今度は神殿の庭を守り、家の中に商品を持ち込むのを禁じました。この庭はサッカー場数面分もの広大な敷地でした。人々で満ちたこの広大な空間を支配できたイエスの力は、彼の影響力の大きさと、彼の人格の力強さを物語っています。

イエスの「父の家に対する熱意」は、三つの関心によって支えられていました。第一に、父の誉れと栄光です。この点については、最初の清めに関する解説 (DJN #36) で既に触れました。

二つ目の関心事は、福音を携えてすべての国々へ宣教することです。彼はこの点についてイザヤ書56章7節を引用し、「**わたしの家はすべての国々の祈りの家と呼ばれるであろう**」と述べています。神殿は地上で最も栄光に満ちた場所、異邦人が集まり、すべての国々の神を知ることができる場所となるよう意図されていました。「異邦人の庭」は特にこの目的のために造られました。しかし、まさにそこが商人たちが商売で大騒ぎを起こした場所でした。

金銭や動物の販売によって占められた音、匂い、そして空間は、すべての国々がそこに来て神を知り、祈りを通して神と交わるとする神の意図を破壊しました。こうした商品販売は、すべての国々への福音宣教という神の情熱に真っ向から反するものでした。決して容認できるものではありませんでした。

最後に、第二の清めは権威に大きく関係していました。神殿は大祭司と祭司長会議の管轄下にあり、彼らは権威を行使して異邦人の庭における商業活動を支援し、保護し、そこからかなりの私腹を肥やしていました。彼らは祭司としての職務において神の利益を代表するという責任を完全に怠っていました。

イエスはメシア、神の子、そしてメルキゼデクの位階における大祭司として神殿に来られました。イエスは神のすべての力と権威を備えておられました。そして、あらゆる国の人々からなる王国、すなわち神の代表者として永遠に神に仕える祭司の王国を創造するという神の永遠の目的に沿って、それを行使されました。

イエスは神の家の永遠の王であり、大祭司です。だからこそ、受難週の月曜日に神殿を清め、警備されたのです。

応用：

イエスが受難週に二度目に神殿を清めたように、イエスは今日も神の家の神聖さに熱心に取り組んでおられます。それは、私たちが「すべての国の人々を弟子とする」というイエスの使命を効果的に果たせるようにするためです。

旧約聖書では、神は神殿の栄光と神の民の聖性を通して、すべての国々を御自身に引き寄せるという計画がありました。しかし、その契約は失敗に終わりました。新約聖書では、神の民が神の神殿となり、今や神の使命は、人々が「教会に来る」のを待つのではなく、福音を携えてすべての国々に「行く」ことになりました。

デイリー・ジーザス・ニュース #247

神殿の商人たちと同じように、私たちキリスト教徒も、この時代における私たちの主な仕事、つまり福音を持って「出かけて」すべての国々に福音を伝えるという仕事から気をそらされてしまうのは、いとも簡単です。

あなたは、あなたの賜物、財源、時間、祈り、そしてエネルギーを、どれほど多く、すべての国々へのイエスの宣教に捧げることができるでしょうか。今日、それをするのを妨げているものは何でしょうか。

あなたがもっと効果的に、あなたを通してすべての国々に福音を伝えるというイエスの意志に献身するために、イエスはあなたの人生から何を一掃する必要がありますか？